



市民の皆様へ

萩谷 一夫

—公園を『私たちの庭』にしませんか—

6月15日号の本欄「生ごみも立派な資源です」をお読みになった方から、さっそく市民ファックスをいただきました。7年ほどボカシによる堆肥化を行なっているという、大和町のSさんからです。概略をご紹介します。

「庭が狭いのでせっかく堆肥を作っても困っています。友人にも、ごみの減量という観点から興味はあるのですが、集合住宅のためあきらめている人が多くいます。以前から思っていたのですが、たとえば月に1回、A公園付近の住民が堆肥化した生ごみを持ち寄り、持ち寄った人や協力できる人が花壇に埋めるのです。うまくいけば肥料代の節約やコミュニケーションの場にもなるし、最終的には『地域住民の庭』という形で、植える花の種類やデザインを住民に任せて、『市の管理する花壇』から『私たちの庭』にもっていくのです。現在は地域住民の関係が希薄になっており、独居老人や孤独な子育てなど、いろいろな問題もあります。私の案はほんの夢かも知れませんが、ごみの減量と、近所の人々が仲良く暮らせたらいいなあという、ささやかな願いなのです」

Sさんのご意見は、本当にうれしく読ませていただきました。実は私どももまったく同じことを考え、市民の皆様にご提案したいと検討を進めておりましたので、次の2つのプランについてご協力をお願いしたいと思います。

①公園を市民の庭に

市内には91の公園、15カ所の緑地・緑道、275カ所のちびっこ広場、さらに市道（49路線）の街路樹など、管理しなければならないところがたくさんあります。このうち41公園と275カ所のちびっこ広場は、子供会などの地域の団体に掃除や草取りをお願いしています。また大きな公園や市道の街路樹の管理は、延べ35の専門業者に依頼していますが、毎年3億数千万円という、巨額の費用がかかっているのです。Sさんのような考えをお持ちの方、ガーデニングや花づくりのお好きな方、樹木についての知識や技術をお持ちの方、個人でもグループでも結構です。公園を『私たちの庭』にしてみようという方は、この際ぜひご協力をお願いします。

②ホタルが舞う姿をもう一度、私たちの町に、子供たちに

私が子供のころは、家の付近でもホタルを見ることができました。夏になると捕まえたホタルを蚊帳の中に放し、明かりを消して飽かずに眺めたのも懐かしい思い出です。ホタルの再生、言い換えればホタルがすめるような環境を回復する試みは、各地で行なわれています。一宮市でも挑戦してみたいのですが、行政と市民が一体となった取り組みができればと思います。皆様のご協力が得られれば、大野極楽寺公園の一角、市民の森周辺に適切な場所がありますので、そこで始めてはどうかと考えています。興味のある方のご参加をお待ちします。

この2つのプランに参加希望の方は、お名前（グループの場合はグループと代表者名、およびその人数）・住所・電話番号・公園かホタルか、公園の場合は場所と希望する作業内容、何かご提案があればそれもお書き添えの上、9月末までにお便りをお送りください。なお電話によるお問い合わせは公園緑地課（内線2522）へお願いします。初めての試みで、どんな反響があるのか、正直言って見当が付きません。予想以上のお申し込みがあったときは、体制づくりに少し時間がかかることも考えられますので、その点お含みおき願いたいと思います。

「近所の人々が仲良く暮らせたらいいなあ」というSさんの夢は、大多数の市民の夢でもあるのではないのでしょうか。みんなの夢を実現するために、どうか力をお貸しください。

【お願い】皆様からのご意見にはお返事をしたいと思います。お名前、ご住所をお書きくださるようお願いいたします。市民ファックス（FAX☎7229）・市民ポスト（市役所1階に設置、出張所でも受け付け）をご利用ください。